

パパとママのHappy共働き

福岡県の働くママに関する実態調査アンケート



2013年8月

株式会社アヴァンティ

avanti働く女性研究所事務局

ママたちは、一日いち日をどうやりくりしているのだろう。「家事・育児は夫婦で分担してる?」「子どもの病気のたびに会社を休むしかない?」「仕事と育児の両立、正直どう思ってる?」など、働くママたちの実態を探った。

【調査概要】

1. 調査データ

avanti働く女性研究所

2. 調査対象

福岡県内の夫婦共働きで
子育て中の女性

3. 調査期間

平成25年7月16日～28日

4. 調査方法

avanti働く女性研究所
登録メンバーに対する
インターネット調査

5. 調査規模

68サンプル

【回答者属性】

●年齢

20歳～24歳	0%	40歳～44歳	26.5%
25歳～29歳	5.9%	45歳～49歳	8.8%
30歳～34歳	26.5%	50歳以上	0%
35歳～39歳	32.4%	合計	100%

●雇用形態

正社員	73.5%	パート・アルバイト	5.9%
契約社員	11.8%	フリーランス	5.9%
派遣社員	0%	休職中	0%
経営者	2.9%	合計	100%

●職種

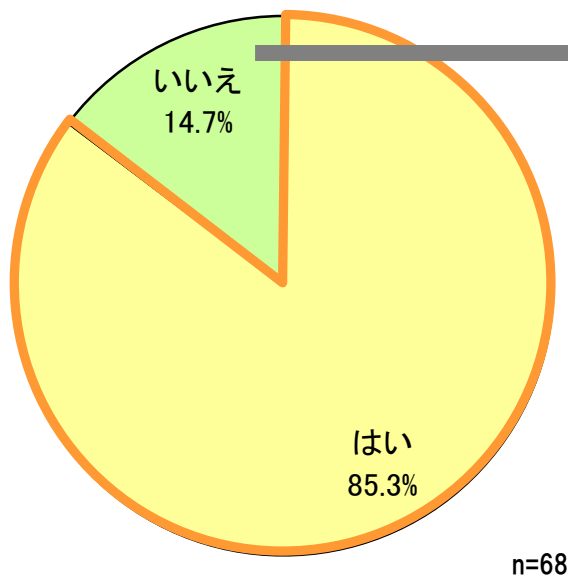
事務	39.4%	専門職	33.3%
営業	6.1%	管理職	6.1%
販売	9.1%	その他	6.1%
接客	0%	合計	100%

1 育児休業と保育園

出産前の気持ち「またこの職場に復帰したい！」

Q1. 出産後も、同じ職場で働き続けたいと思いましたか？

出産後も同じ会社で働き続けたかった



Q1で「いいえ」の人へ

Q2その理由 (抜粋)

サービス残業も多く勤務形態が厳しかったのでこれを機に働き方を見直したいと思った。

夫が転勤族だったため、やむを得ず退職した。そうでなければ、仕事を続けていたと思う。

夫の勤務地が遠方だったので、出産までは別居していたが、子育ては一緒にしたいと思った。

妊娠を機に退職の雰囲気になった。

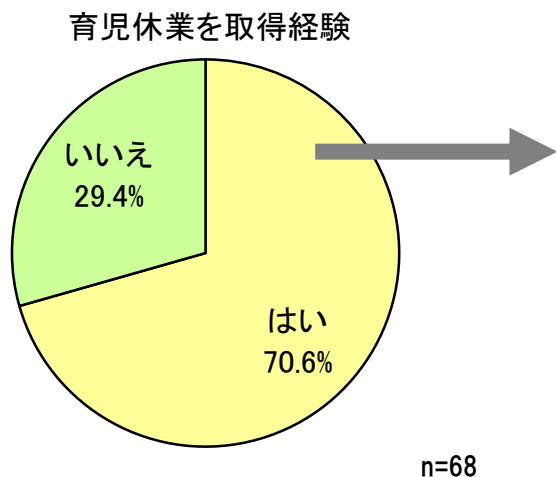
出産後働いた女性の前例がなく、出産を告げた3ヶ月後くらいに、上司に呼ばれ、「産んで、どれだけ今まで通り働けるのか？」と問われた。暗に退職勧告のようなものを感じた。

出産後も同じ職場で働き続けたい、と感じた女性は85.3%。現在子育てをしながら働いている母親たちの多くは、出産前に可能な限り現在の職場に貢献したいと感じていることが分かった。

一方で、「職場を変えたい(変わらざるを得ない)」と思った人は約15%。「働き方を見直したい」という前向き意見から、夫の事情、理解なき職場の雰囲気にも悩む女性の姿も見られた。

育休取得者は一歳以内にフルタイムで復帰が一番多い。

Q3. 育児休業を取得したことがありますか？

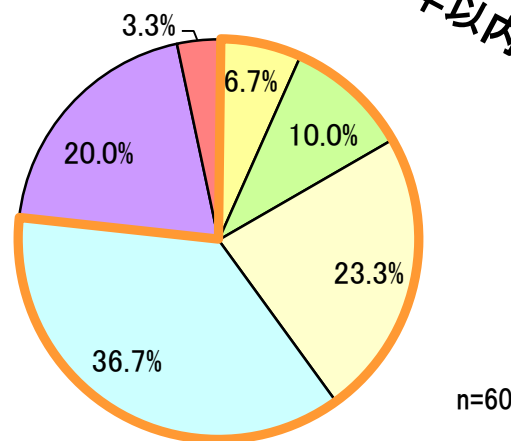


育児休業取得者は7割。未取得者は、いったん退職、現在再就職した人たちと推測される。

取得期間は、「10～12ヶ月」取得外地番多く、続いて、「7～9ヶ月」と続く。一年以内に復帰した人は全体の4分の3を占めている。

復帰直後は半数がフルタイムでの復帰と、いきなりの育児・仕事両立に迫られている現実が見える。

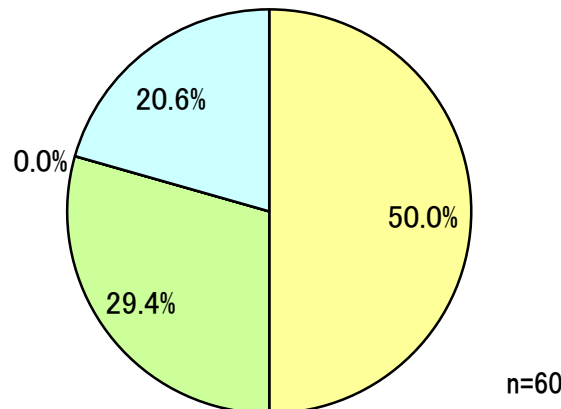
Q3で「はい」の人へ Q4 育休取得期間は？



4分の3が
一年以内に復帰！

- ～3ヶ月以内
- 4ヶ月～6ヶ月以内
- 7ヶ月～9ヶ月以内
- 10～12ヶ月以内
- 1年～1年半以内
- 1年半～2年以内

Q5 復帰後の働き方は？

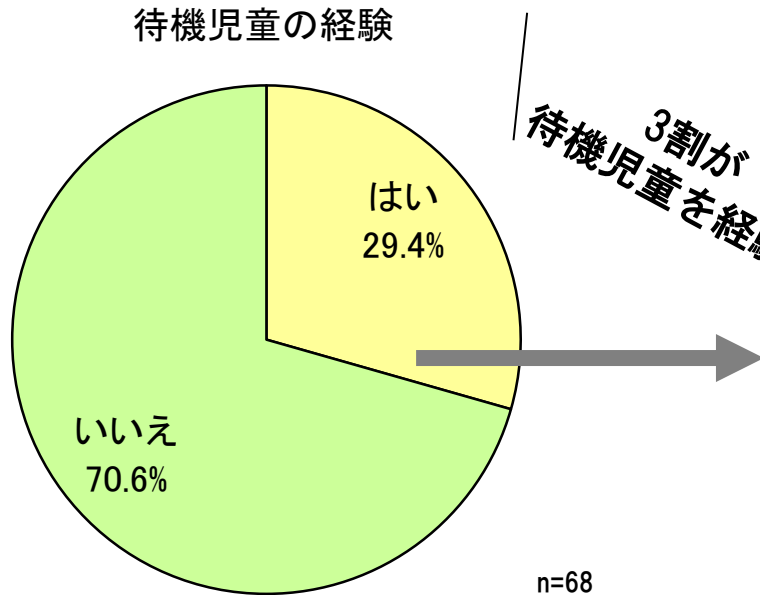


- フルタイム勤務
- 短時間勤務制度を利用
- フレックス制度を利用
- その他

2 保育の現状

今、課題の待機児童、3割が経験。

Q6. 待機児童の経験



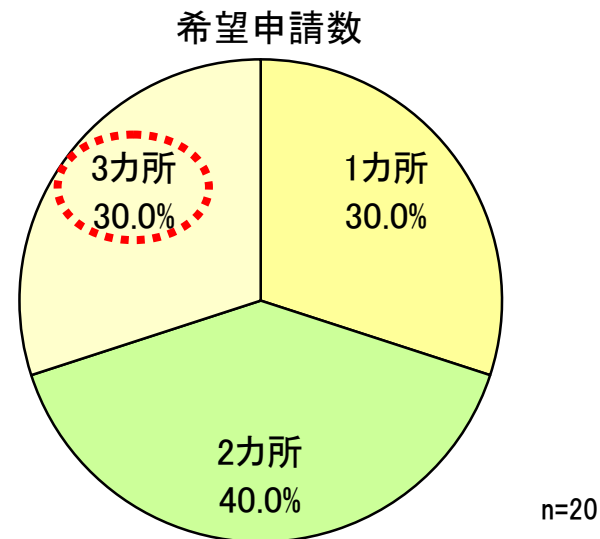
3割が
待機児童を経験!

Q6で「はい」の人へ

Q7 いくつの園に申請をしましたか？

復帰時に「待機児童」を経験した人は、3割。

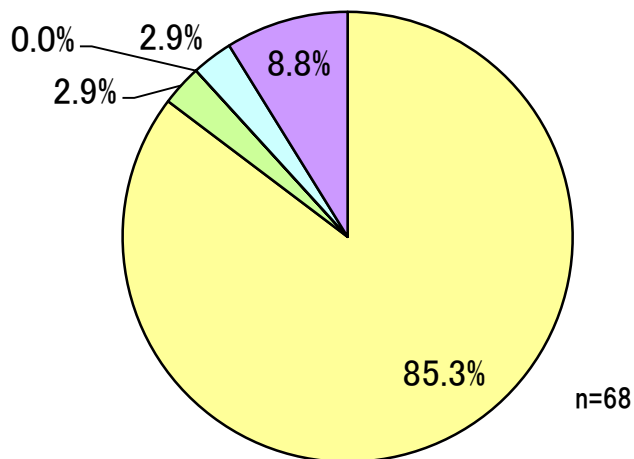
そのうち、いくつの園に希望を出して、いずれも叶わなかったのかを尋ねたところ、一番多かったのが「2カ所」。「3カ所」出しても通らなかったという人も3割存在。課題を早く克服しないと働くに働けない現状がここにも。



希望した施設へ預けられない人、約2割

Q8. 復帰前の理想の預け先は？

理想の預け先



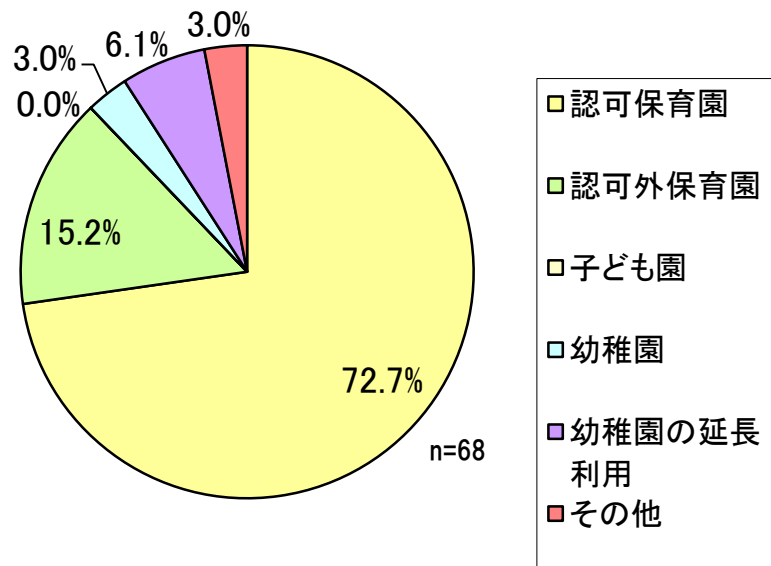
復帰時「認可保育園」に預けたい人が85%。
「幼稚園の園長利用」という選択肢も1割存在。

実際に「認可」に預けられたのは72%。「認可外」が15%以上存在するなど、約2割の人が理想と現実が違うことから、待機児童等を経験し、理想とは違った選択を迫られた様子が伺える。

Q8で「はい」の人へ

Q9 実際の預け先はどこでしたか？

実際の預け先

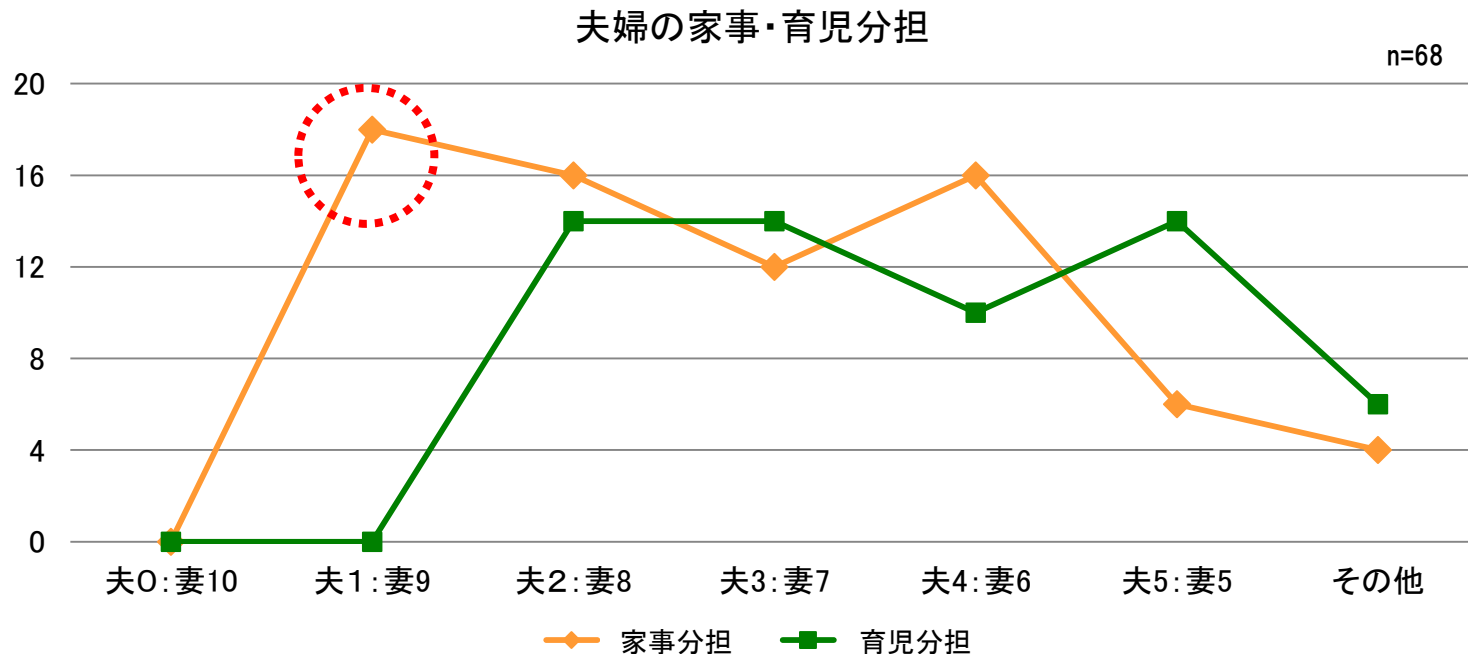


【理想と現実が違った例】(抜粋)

理想	現実
認可保育園	認可外保育園
幼稚園の延長利用	認可保育園
認可保育園	その他 (義母が面倒を見てくれた等)

共働き子育て夫婦、分担はまだまだ発展途上。

Q10. 夫と自分の家事・育児分担の配分について教えてください。



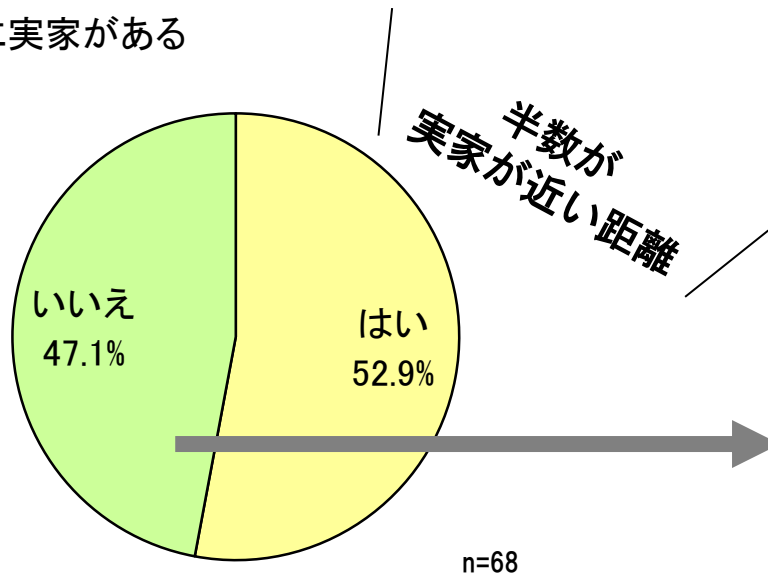
これは、妻側の回答であるため、もしかしたら夫の主張は変わってくるかも知れない。しかし、それを考慮したとしても、あまりに共働き世帯の夫の家事・育児分担が低いことが見て取れる。家事分担で一番多いのが、「夫1:妻9」とは、ほとんど妻といっても差し支えない。半分に分担している夫婦はわずか5組。妻より夫の家事分担が多い家庭は皆無だった。この結果の理由として考えられるのは、夫の長時間労働、性別役割分担意識がまだまだ(男女ともに)根付いていることがあげられるのではないかと。

育児分担については、少し改善し、半々という夫婦も増えていることから、「家事よりもまずは育児から担当してもらおう」という女性たちの心理も垣間見える。働き方の違いはあるとは言え、この結果は「共働き世帯」での結果だ。急速な改善が望まれる。

いざというとき頼れる実家が近くない人…約5割。

Q11. 子どもの病気等サポートを頼める実家が、近く（～10km）にありますか？

近くに実家がある



近くに実家が「ある」、「ない」はそれぞれほぼ半数に分かれた。

近くに頼れる実家がない場合、病気の時などどうするかと聞いたところ「病児保育」が圧倒的に多く、次いで「近くないが実家に頼る」という人が多かった。

「ファミリーサポート」「シッター」等の手段を選ぶ人はごくわずかで、「病児保育」「親」以外には自分が休む・夫と交代という結果に。

Q11で「いいえ」の人へ

Q12 どうしても自分で保育ができないときの対応はどうしていますか？

- ・(自分の)祖父母にお願いする
- ・ファミリーサポートの利用
- ・病児育児の利用
- ・以下順に手配 ①病児保育予約 ②ベビーシッター手配 ③自分が休む
- ・夫とスケジュールを合わせて自宅で看護
- ・少し遠いが自分の親を呼んで頼む
- ・自分が休むしかない
- ・緊急の際は、時間休をとり、実家(電車で1.5時間)の父母に迎えにきてもらい、実家に引き取ってもらう。

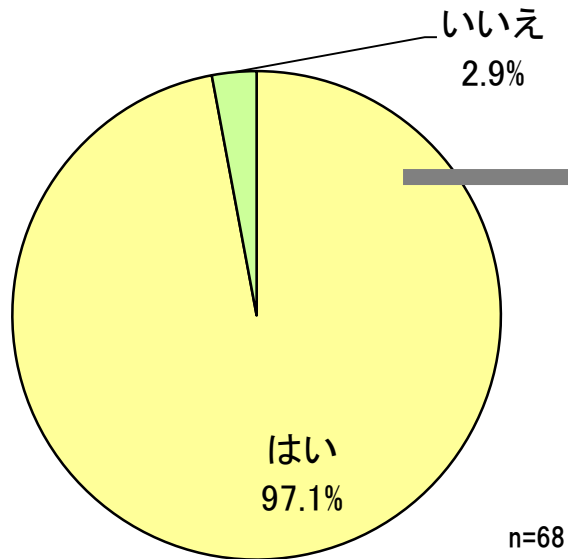
「病児保育」利用者は半数。

Q13. 「病児保育」を知っていますか？

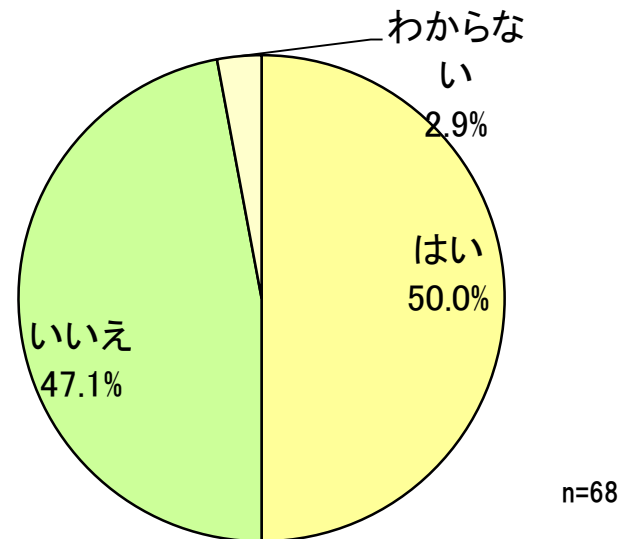
Q13で「はい」の人へ

Q14 利用したことがありますか？

「病児保育」認知度



病児保育の利用度



「病児保育(病児デイサービス)」制度はほとんどの人が知っているという状況。

しかし、実際に「利用したことがある」人は半数。知ってはいるが、先ほどあがった「親」「自分が仕事を休む」「他のサポート」を選択する人が半数いることが分かる。

両立で悩む母は悲鳴を上げる寸前にも見える。

Q15. 仕事と子育ての両立で、大変だと思うことがあれば具体的に教えてください。
(自由記述・抜粋)

n=68

子ども

もう少し子どもと向き合える時間が欲しい。

栄養を考えて料理できないので栄養管理が心配です。

学校行事やPTA活動が平日で、参加しにくい。

家事をする時間がなくなると、暮らしと心に潤いがなくなる。

晩御飯が遅くなってしまう。

子どもが大きくなったとき、安心して長期休暇中の子どものサポートをする環境がないこと。

体力・時間

仕事が激務だった日の、自宅での家事育児。少し横になりたい時がある。

義母と同居しているため、あまり手抜きができず気分的にゆっくりできない。

夫婦ともフルタイム・残業で働いているので、体力的なところで多々限界を感じる。でも仕事量はとても時短ではやっていけるものでない。

認可外で園庭がなく、子どもの体力が有り余り帰宅後に公園に連れていく。体力的にも時間的にも辛い。

職場

責任ある業務は任せてもらえにくさがある。

子供の行事に参加するのが後ろめたい。

突然の出張命令

皆が残業を多くする環境下で、自分だけが短時間勤務で先に帰ることへの抵抗感。

出産前のような業務ができないジレンマ。

子どもが病気になると、一気に仕事のスケジュールが狂うこと。

夫

夫に家事の協力が望めない。

夫が家事に非協力的なので、日頃から帰宅後はマッハで家事をこなさなければならないのがツライ。

子供とたくさん遊んでくれるのは有難いが、家事も手伝って欲しい。

自分

両立しなきゃという想いに縛られること。

悩みを大別すると「子どものこと」「体力・時間のこと」「職場のこと」「夫のこと」「自分のこと」に分けられる。一番多くあがったのは「体力の限界」「時間が足りない」といった声。帰宅後寝かしつけに入るまで、座ることがない。といった声も聞かれた。

【総括】福岡で働きながら子育てをする女性の現状は…

◆出産前、同じ職場に戻りたいと考えていた女性たち、85%。

引き続き同じ職場で働きたいと感じた女性たちがほとんど。そう思わない人は、働き方を見直したいなど前向きな意見が多い。

◆育休取得者の4分の3が1年以内で復帰。フルタイムで復帰が半数。

育児休業取得者は7割。取得期間は、「10～12ヶ月」取得が一番多く、続いて、「7～9ヶ月」と続く。一年以内に復帰した人は全体の4分の3を占めている。復帰直後は半数がフルタイムでの復帰と、いきなりの育児・仕事両立に迫られている現実が見える。

◆3割の人が「待機児童」を経験。

復帰時に「待機児童」を経験した人が3割にのぼった。そのうち3カ所に希望を出してもすべて断られた人が3割存在している。

◆希望した施設へ預けられない人、約2割。

希望を出した施設以外となってしまった人は、2割に登ることが分かった。

◆夫との家事分担はほとんど進んでいない。

家事分担の割合で一番多かったのが「夫1:妻9」。その他も夫の家事分担の少なさが明るみに。

◆夫との育児分担は家事よりは多い。

家事分担より夫の分担分が増えている「育児」。それでも妻より多く分担している人はいなかった。

◆いざというとき頼るのは、「実家」or「病児保育」。

実家が近くにあるのは約半数。子どもの病気など、保育園に預けられないときは実家に頼んでいる。一方、実家が近くにない もう半数の人たちは、「病児保育」を利用していることが分かった。病児保育の予約が取れなかった場合は「夫と交代」「休む」という選択をしていた。「病児保育」サービスの拡充も求められる。

◆働くママに5つの壁 「子どもの成長」「体力・時間」「職場」「夫」「自分」 各対策を。

働くママの毎日は、まるで戦いのよう。悩みを抱える5分野それぞれからの支援が急務だ。

それでも、ママは「働くことをあきらめない」。

働くママを取り巻く現状は、過酷なものだった。希望する保育園に入れなくてもあれば、夫婦の家事・育児分担もままならない。そして体力・時間の限界…。けれど、彼女たちは、そうまでして働くことをあきらめてはいない。

一方で、工夫をして夫婦で助け合っている例も耳にする機会が増えてきたのも事実。

本当にハッピーに子育ても、仕事も、家事も行うには、協働は欠かせない。

女性たちは「全部私がやらなきゃ」の呪縛から自らを解放する時期ではないだろうか。

子どもに笑顔で向き合えることが一番、と考えるならば

公のサービス拡充はもちろん、時短グッズや民間サービスを利用することも視野に入れたり、女性たち自身の意識改革といった支援が、今必要とされている。



本件に関するお問合せは、
株式会社アヴァンティ まで

avanti

【データご利用の際のお願い】

データの引用、出版・印刷物への転載に関しては、出典元を「avanti働く女性研究所調べ」と明記していただければ、基本的にご利用いただけます。また、ご使用に際しては必ず下記の「avanti働く女性研究所」窓口までご一報ください。

E-mail : labo@e-avanti.com

TEL : 092-724-3226